

第〇学年〇組 家庭科学習指導案

令和7年〇月〇日 〇曜日 第〇時（調理室）

指導者 〇 〇 〇 〇 〇

1 題 材 災害への対策

2 題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間の関わりと住居の機能、家族の安全を考えた住まい方について基礎的・基本的な知識と技能を身に付けることができる。
- (2) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) よりよい住生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について課題の解決に主体的に取り組み、改善し、工夫し実践しようとする。

3 学習の計画 （6時間完了）

- | | | |
|-----|---------|---------------------------------|
| 第1次 | 第1時 | 住まいの役割や特徴を考え、家族の生活との関りについて理解する。 |
| | 第2時 | 住まいと気候風土との関わりについて考える。 |
| | 第3時 | 健康で快適な室内環境について考える。 |
| | 第4時 | 住まいの安全について考える。 |
| | 第5時（本時） | 災害に備えた住まい方について考える。 |
| 第2次 | 第6時 | 持続可能な住生活を目指して、自分の考えをまとめる。 |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 実践したことを災害時や生活の中に生かそうと考えることができる。
 - 積極的にグループ活動に参加し、実習成功に向けて協力しようとする。
- (2) 準備・資料
 - 生徒……ファイル、新聞紙、三角巾、エプロン、マスク
 - 教師……じゃがりこ、飲料水、缶詰、ビニール袋、マヨネーズ、ワークシート「災害食を作ってみよう」
- (3) 関 連

1年 家庭 私たちの食生活
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項
課題の把握	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <p>(1) 災害時の備えにはどのような準備をしているか考える。また、非常食にはどんなものがあるか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯 ・ガスボンベ ・携帯用トイレ ・乾パン ・レトルト食品 ・缶詰 ・アルファ米 ・水 <p>(2) 消費期限が切れた非常食の処理の方法を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾パン→そのまま食べる 捨てる 食べるが残る ・アルファ米→食事の代わりに食べる 		<ul style="list-style-type: none"> ○自宅での被災時の備えにはどのような準備をしているか、想起させる。 ○非常食について知っているものを発表させる。 ○非常食の消費期限が切れた際の処理の方法について、各家庭ではどのような方法をとっているか発表させる。 ○乾パンや災害用の非常食は消費期限が切れてしまうと、余ったり、美味しくなかったりと、処理に困ることに気付かせる。

課題の追究	2 本時の学習課題をつかむ。 身近な材料で非常食を作ってみよう。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○非常食だけにこだわらず、家庭で日頃から食べている食品を使用することで、消費期限の近くなった食品の処理がしやすいことを伝える。
	3 個人で学習課題についての理解を深める。 (1) ローリングストック法を知る。		<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に食べた分を買い足すことで備蓄し、食べながら備えるため、消費期限が近い食品等も非常食として扱えることに気付かせる。 ○乾麺は茹で時間が短いものがよいことを伝える。 ○カセットボンベの使用可能時間も考えて用意することを伝える。
	4 グループで災害食の調理をする。 (1) ポテトサラダ <ul style="list-style-type: none"> ○①じゃがりこをポリ袋に入れ水に浸す ○②①が柔らかくなったら潰す ○③②の中にコーン、ツナ、マヨネーズを入れて袋ごと混ぜる (2) 皿を作る <ul style="list-style-type: none"> ○新聞紙1枚を使い、教師の見本に習い一人一皿作る。 (3) 試食 <ul style="list-style-type: none"> ○作った皿にポリ袋を被せ、ポテトサラダを盛り付ける。 (4) 後片付け	45	<ul style="list-style-type: none"> ○じゃがりこがある程度柔らかくなったら、ビニール袋が破れないように手加減をしながら潰すように伝える。 ○じゃがりこを浸している間に新聞紙で皿を作らせる。 ○作り方の見本を見せながら作成させる。 ○全員が完成するように班で協力させる。 <p>○さらに余裕のある生徒は、プリントを参考に、皿以外にもコップや種類の違う皿を作らせる。</p> <p>評グループでの活動に意欲的に取り組み、協力しようとしている。(グループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料的にはハイカロリーにはなるが、栄養補給に適していることを伝える。
	5 本時のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○本時の内容を学び、災害への備えで大切なことをまとめる。 	50	<p>評実践した内容を、災害時や生活の中に生かそうと考えようとしている。(ワークシート)</p>

(5) 本時の評価規準

- 実践したことを災害時や生活の中に生かそうと考えようとしている。(ワークシート)
- 積極的にグループ活動に参加し、実習成功に向けて協力しようとしている。(グループ活動)

5 備考

(1) 学級の実態

- 災害対策に関心をもち家庭で取り組んでいる生徒もいるが、まだ関心が低い生徒も多い。
- 話し合い活動に積極的に取り組むことができ、考えた内容を発言することができる。

(2) 指導の力点

- 本時では、「ローリングストック法」を生徒が実践につなげられるよう、手に入れやすい『じゃがりこ』というスナック菓子を用いることで興味を示しやすくした。
- 生活に必要なものを新聞紙で代用するなど、工夫次第で避難生活が潤いあるものに変えられることに気付かせる活動を通して、災害時の生活を具体的に考えられるようにした。
- 災害時、避難所などで中学生の力が必要となることが考えられる。本時をきっかけに、生徒自身が家族や地域の人々にとって、心身の支えとなる存在になろうと考えられるようにした。

6 指導と評価